

研究計画書

ゼミ名	宮川ゼミ	チーム名	MIYAJI
タイトル	自由と幸福度		
テーマ群	a)理論・情報		
メンバー	赤松鈴、飯端真奈人、谷口誓、堤下ひな、中上瑠菜		
研究計画内容	<p>「研究の背景」</p> <p>大学生は「人生の夏休み」といわれ、自由の象徴とされている。しかし、部活や受験勉強で忙しく、自由が少なかった中学生や高校生の方の方が、現在よりも幸せだったと言う人もいる。この経験から、自由が多ければ幸せだという人がいるが、実際は自由が多い方が幸せとは限らないのではないか？という疑問を持った。そこで私たちは自由と幸福度の関係を、行動経済学や開発経済学で頻繁に用いられるようになった幸福度調査の手法を用いて研究する。さらに、消費選択において、選択肢の数が減ったり、選択肢が他者によって制限されるというような「選択の自由」が奪われることが、消費の満足度にどのような影響を与えるかを、消費選択における支払意思額の概念を用いて考察する。</p> <p>「研究の内容」</p> <p>自由と幸福度の関係について調査するため、関西近隣の大学生約 300 名にアンケートを実施した。「選択の自由」と消費の満足度については、アイエンガー『選択の科学』、幸福度と自由の関係性については、大竹文雄他『日本の幸福度』を基にアンケートを作成した。自由はお金と時間が密接に関係していると考えた。自由を数値化するために、幸福度と一か月に使えるお金、時間の使い方、他人からの制限に関する独自の質問を作成した。そして数値化した自由と幸福度の回帰分析を行った。また、T シャツ、アイスクリームという身近な物は選択肢が多ければ多い方がより自由であると仮定し、選択肢の数と支払意思額はどのような関係があるのか、選択肢が他者から制限された場合、支払意思額はどのように変化するのかを調査した。被験者を 5 つのグループに分け、ランダム化比較試験 (RCT) の手法を用いた。</p> <p>「期待される効果」</p> <p>「自由が多いほど幸せだ」と考えるのが一般的である。本研究では「自由が多いよりも自由を制限することによってより幸せを感じる」という結果が得られている。現在さらに標本数を増やし、統計的に有意な結論が得られないかを模索中である。得られた結果から、自身で自由を制限し、幸福度を高める最善の方法を提案したい。</p> <p>「参考文献」</p> <p>シーナ・アイエンガー『選択の科学』文藝春秋、2010 大竹文雄・白石小百合・筒井義郎『日本の幸福度 格差・労働・家族』日本評論社、2010</p>		